

	大谷教師塾 教員養成ナビゲーター	大谷大学 教職支援センター
		第134号 2024. 11. 20

今回は、3年生の教職志望学生に《こんな先生になりたい》《3年生受験をして・・・》という2つのテーマで原稿募集を行い、その原稿の一部を掲載しました。

3年生に聞きました 《こんな先生になりたい》

《楽しそうに授業をし、子どもと共に遊ぶ先生》

教育学部・教育学科 浦島 大輝

私が教師を目指したきっかけは、小学校4年生と6年生の担任だった先生に憧れたからです。その先生はだれよりも無邪気で、目立ちたがり屋で、そして楽しそうに見えていました。小学生よりも元気な先生が楽しそうに授業をしてくれて、一緒に遊んでくれて、私は小学校生活を楽しく過ごせました。しかし、いま教師を目指して勉強をしていくにつれて、とてもたいへんな仕事だと知り、どれだけ先生が努力していたかを思い知り、さらにこの担任の先生のような先生になりたいと思いました。

《児童が安心できる先生》

教育学部・教育学科 岡田 大輝

私は、使命感や責任感、子ども理解力を兼ね備えるとともに、子どもたちが安心して学校生活を過ごせる環境づくりができる教師を目指したい。例えば、SNSを使った見えないいいじめを早期発見、早期対応できるように、SNSの正しい使い方を子どもたちと共に考えたり、トラブルになった際の対処方法を丁寧に教えたりして、子どもたち同士の良好な人間関係を築かせたい。

《子どもの話をしっかりと聞ける先生》

教育学部・教育学科 川満 佳子

私は子どもの話をしっかりと聞ける先生になりたいと思う。そう思うのは、小学生の時の経験からだ。私は人と喋るのが大好きでずっと先生や友達と喋っていた。特に、6年生の時の担任の先生は忙しい中いつでも話を聞いてくれた。自分の話を聞いてくれて嬉しいと感じるのは、大人でも子どもでも同じだと思う。そのため、子どもの話をしっかりと聞ける先生になりたい。

《児童に対応できる先生》

教育学部・教育学科 小長谷 廉

私は、児童一人一人に合わせた指導ができる教師を目指している。児童の人間性を育てるためには、その児童が考え、学び、活かすための適切な指導をしなければならない。当然、全く同じ感性、考えをしている児童がいる訳もなく、児童の数だけ指導法は異なる。日頃から児童と向き合い、真摯に接することで人間性を知ることができる。



《児童の人間力を育む先生》

教育学部・教育学科 下山 颯斗

私の目指す教師像は、児童の気持ちに寄り添える先生です。児童が抱える悩みや不安に正面から向き合い対応できることはもちろん、喜びや嬉しさなどの気持ちにも一緒になれる先生になりたいです。そうすることで先生と児童の信頼関係がより深まり、クラスとしても一体感が生まれると思います。そのために普段から児童との関わりを大切にして話しやすい雰囲気を作っていこうと思います。

《児童の個性や能力を理解し尊重できる先生》

教育学部・教育学科 内貴 健斗

私の目指す理想の教師像は、子どもたちそれぞれの個性や能力を理解し尊重することができる人である。知識や技術だけでなく、子どもたちに寄り添い、温かさや深い理解を持ちながら指導することができる人が理想である。さらに、情熱や熱意を持ち、常に学び続け、成長し続ける姿勢を持つことも重要であると考えている。子どもたちと学びと希望を共有する存在であり、豊かな人間としての価値観を育むことができる教師になりたいと私は強く思う。

《笑顔の絶えないクラス作りができる先生》

教育学部・教育学科 松居 航平

自分は、笑顔の絶えないクラス作りが出来る先生になりたいと考えている。私は小学校高学年のとき人間関係で辛い時期があった。そのような児童を私の手で一人でも減らしたいと思い教師になりたいと思っている。当たり前のことではあるが、一人の児童も見捨てず一人ひとりに寄り添い、「辛い」といった思い等を少しでも緩和し、また学校に来たいと思わせる学級づくりができるようになりたい。

《子どもの変化に気づいて寄り添うことのできる先生》

教育学部・教育学科 松川 紡

私は児童から認めてもらえる先生になりたいと考えている。児童から「何でも相談できるし、授業も楽しいし、この先生好きだな」と思ってもらえるような存在になりたい。ただ単に好かれるだけでなく、児童から信頼されるような関係を築き、自分自身でも先生であることを誇ることが出来るようになりたい。そのために、大学生活では自分の将来の教師像をイメージしながら、何事にも積極的に取り組む努力をしている。

《子どもの変化や成長、興味関心を感じ取れる先生》

教育学部・教育学科 吉川 幸歩

私の理想の教師像は子どもの変化や成長、興味関心を敏感に感じ取る教師である。私は小学校3年生の頃の担任の先生に、「あなたは発想力とそれを表現する力がある」と言っていた記憶がある。私の当時の成績は大半が3段階評価の真ん中であつたが、先生は図工の成績のみに3がついているのを見落とさず私に備わっている力や可能性を見出してくださった。今では図工ゼミを選択する程、何かを制作、表現することが好きになった。このように私は子どもの成長に携わる者として興味関心を敏感に感じ取れる教師になりたい。

《感謝される教師》

文学部・文学科 尾崎 稜

私は感謝される先生になりたいと思っています。具体的に感謝されるとはということかという、「勉強のコツを教えてくれてありがとう。」や「部活動のアドバイスありがとう。」など普段の学校生活から、「先生のおかげで卒業できた。ありがとう。」など年度を通して感謝されるような事です。そして、感謝されるには、まず自分から普段感謝を伝えることが大切だと思っています。なので、必ず感謝され、まわりに笑顔が絶えない先生になりたいと思っています。

《学びの楽しさを感じさせる教師》

文学部・歴史学科 小坂 麗乃

私は生徒にとって「学びが楽しい」と思える授業をする先生になりたい。社会科は単なる暗記科目ではなく、過去から学び未来を考える力を育むものである。生徒が歴史の学習を通して好奇心を持ち、他者や社会の多様性を理解するきっかけになるような授業づくりを目指したい。また、生徒一人ひとりの意見や個性を尊重し、安心して意見を表現できる教室づくりにも力を入れ、生徒の成長を見守る存在でありたい。そのために自らも学び続ける教師でありたい。

《共に幸福や生きがいについて考えられる教師》

文学部・文学科 汐崎 姫乃

私は身近な生活における幸福や生きがいについて共に考えることができる先生になりたい。生徒は学業や進路、部活動等の様々な活動を学校という空間で行う。やることが多いが故に、目先の物事(定期テスト、受験等)に捉われて疲れ、悩んでしまう生徒も多いのではないだろうか。そのような生徒を見つけた際、積極的に声をかけ、生徒が笑顔でほっと一息つけられるような場所や目線(視野)を提供できる教員を目指そうと思う。

《生徒と共に学び、成長し続ける教師》

文学部・文学科 竹内 涼緒

私は生徒と共に学び、成長し続ける教師になりたい。授業や学校生活を通して、授業をするだけでなく教師が学ぶことも沢山あると思う。教師は、一人ひとりの生徒と向き合い、寄り添い、指導するのが役割である。そのためには、多くの知識と様々な視点や見方をもったよりよい指導力が求められる。生徒の成長を支援しながら、自分も学ぶ意志を持ち、常に成長し続ける教師になりたい。

《生徒を包み込む教師》

文学部・歴史学科 山口 楓乃

私は、どんな時でも生徒たちに寄り添うことができる教師になりたい。生徒の考えを否定せず、思いを全て受け止め生徒から信頼される存在でありたい。1人で悩む生徒が少しでも減ってほしい。そのためには、生徒1人1人をよく観察し変化にすぐ気づけるように広い視野をもつ必要がある。日々成長しつづけ、生徒たちが一緒にいると安心できる温かいクラスをつくりたい。柔らかな雰囲気の中で生徒を包み込む教師になりたい。

3年生に聞きました ≪3年生受験をして・・・≫**≪目的は2つ≫**

教育学部・教育学科 阿部 格大

私が3年生受験した目的は主に2つある。1つ目は本番の4年生までに少しでも負担を減らそうという思いを持って受験をした。その結果、試験の一部合格を得ることができた。2つ目は受験の環境へ慣れることだ。これは軽視されることかもしれないが、募集の時期や日程、申込の手順や方法など来年の本番で間違えることがないように慣れるのも目的だった。また、会場の雰囲気を知っておくことも必要だと考えた。この2つの目的を持って受験に挑戦した結果、両方達成することができたので十分価値はあった。

≪時間配分を考えて≫

教育学部・教育学科 天野 美遥

勉強は4月から始めて、一般教養を中心にしました。教職教養は春休みに大学から出されている問題を繰り返し解いていました。

当日は体育館が会場でした。問題を解くことに必死になってしまい、時間配分ができず、最後まで丁寧に解くことができなかったです。前の問題から解くのではなく、得意な分野から始めると、確実に点数を取ることができると思いました。

≪受験して良かった≫

教育学部・教育学科 井関 萌黄

私は最初、3年生受験に自信がなく、受験をしない選択をするつもりでした。でも、別のことで教職アドバイザーの方に相談したときにぜひ受験した方がいいと背中を押してもらい、受けることを決めました。それから過去問を8年分ほど解きました。過去問で勉強することで、その地域の傾向を知ることができ、効率よく勉強を進めることができました。3年生受験を経験したことで、受験の様子や勉強法を知ることができ、来年への不安が少し減ったので、受験して良かったです。

≪共に頑張りよう≫

教育学部・教育学科 口原 光大

私が3年生受験をして感じたことは、「受験の機会は絶対に逃すな!」ということです。もちろん4年生まできっちりと勉強をして挑むというのも一つの考えだと思います。しかし、3年生で1度挑戦してみることで、その地域で出題される問題の傾向や、自分の苦手分野が分かります。また、実際に受験することで、受験の雰囲気を体感することができます。このように実際に受験しないと分からないことも多いです。少しずつでもいいので簡単なところからやっていくのがおすすめです。共に頑張っていきましょう。



《私の勉強方法》

教育学部・教育学科 西尾 遥翔

私が受験した自治体は、周りと比べて告知が遅くバタバタしながら準備をしました。まずは、過去問を1周目は調べたり答えを見たりしながら知識が定着するように解き、2周目以降は間違えたところに印をつけながら細かいミスを減らすように解いていきました。次に小論文は、過去の事例や自身の経験をもとに、より具体的に書く練習をしました。そして書いたものをアドバイザーの方や友人に読んでもらい、添削して内容を固めました。

《来年度に必ず合格！》

教育学部・教育学科 三河内 伶央

受験のきっかけは、4年生で受ける試験で試験内容や会場の雰囲気を知った状態で受けることができると、自分にとってメリットがあると感じたからだ。3年生は1次試験のみ受験可能で筆記と集団面接を受けた。結果は第Ⅱ区分合格というもので、次年度の教職・一般教養が免除になる。今回の受験で私は試験の内容を理解することができたので、来年度に必ず合格できるように今から勉強に力を入れていきたい。

《必要なのは対応力》

文学部・真宗学科 赤松 涼介

3年生受験をするにあたって、最も大切なことは「その場を利用する」ことだと考える。私が受験した自治体では集団討論があった。そこでは、事前に提示された3つのテーマから1つが提示され、討論開始となる。周りは4回生や講師がいるため不利なのではと思うかもしれない。しかし、ここで大切なのは「討論」であること、「敵ではない」ことだ。答えを出さなくてもよく、協力ゲームである。自身より優れていると感じる人がいたなら、その良さを認めつつ討論の発展に生かせばよい。必要なのは対応力だ。

《絶対に受かるという気持ち》

社会学部・現代社会学科 廣瀬 蓮華

私が受けた科目は、教職教養、小論文、個人面接である。勉強方法については、教職教養は過去問を解き、間違えた法令や要項の文言を読み返し、再度、過去問を解くということを繰り返した。小論文と面接は支援センターのアドバイザーの方に協力していただき、週に1回は小論文を書く、面接を行うということをした。小論文と面接は、場数を踏んで慣れるということが一番大切だと思った。

最後に、教採を受けるために一番必要ことはやる気だと思う。「絶対に受かる！」という気持ちを持って頑張ってください。

3年生の教職志望学生の文章を読んで、皆さんはどのように感じましたか。それぞれが教職についてしっかりと自分の考えをもち、日々努力を重ねていることが伺えたのではないのでしょうか。大学での学びを共にする仲間が切磋琢磨することで、さらにそれぞれの力量が高まると考えます。一日一日を大切に、夢が実現できるように頑張ってください。(教職アドバイザー)

【一次試験の日程】一次試験の日程が早まっています → 早目の準備が必要！

以前は、6月、7月であった一次試験の日程が今年度少し早まりましたが、さらに来年度は5月11日を目安に前倒しするように文部科学省は指示しています。日程の早期化に合わせて、早目に採用試験対策を開始することをお勧めします。

◇来年度 一次試験開始の日程 ※11月15日現在で発表されている自治体

(校種により別日の場合・複数日実施の場合があります。詳細は各教育委員会HPで確認してください)

- ・5月上旬 茨城県
- ・5月10日 山口県
- ・5月11日 長崎県
- ・5月17日 島根県
- ・6月14日 岐阜県、名古屋市、三重県
- ・6月15日 北海道札幌市、福岡県、福岡市、北九州市、佐賀県、大分県、鹿児島県、宮崎県、熊本県、熊本市、沖縄県
- ・6月28日 長野県
- ・7月5日 岡山県、岡山市
- ・7月6日 東京都、埼玉県、さいたま市、相模原市、横浜市、川崎市、栃木県
- ・7月12日 青森県、秋田県、宮城県、仙台市、岩手県、山形県、福島県
- ・7月19日 香川県
- ・7月中旬 広島県広島市

一次試験はおよそ半年後に迫っています！

【3年生受験】3年生から受験できます → 受験できる機会が増えてラッキー！

昨年度10余りの自治体で実施された「3年生受験」が今年度は40を超える全国約2/3の自治体で実施されています。その試験内容は自治体によって様々ですが、一次試験の一部または全部を実施し、合格者に対して残りの試験を来年度実施する場合が多く、中には、大学推薦制度として3年生時点で二次試験まで実施して合否を決める自治体もあります。また実施時期も春夏に限らず12月に行う自治体も少数ですがあります。本学では、今年度教職志望者の4割程度の学生が「3年生受験」しましたが、準備不足等の理由で受験しなかった学生もいたようです。「3年生受験」は大学生にとって、合格のチャンスが増える有難い制度です。早くから準備して受験することをお勧めします。

◇今年度実施の採用試験で、3年生受験が可能な自治体

- ・北海道札幌市・山形県・新潟県・新潟市・福島県・群馬県・栃木県・山梨県・茨城県・埼玉県・さいたま市・東京都・神奈川県
- ・横浜市・相模原市・川崎市・千葉県千葉市・岐阜県・愛知県・名古屋市・富山県・石川県・福井県・三重県・滋賀県・京都府
- ・京都市・大阪府・大阪市・堺市・豊能地区・兵庫県・神戸市・奈良県・岡山県・岡山市・広島県広島市・香川県・愛媛県・福岡県
- ・北九州市・佐賀県・鹿児島県

◇来年度、新たに3年生受験を実施する自治体(11月15日現在発表分)

- ・岩手県

※校種が小学校のみの場合もあります。詳細は各教育委員会HPで確認してください。

【速報】令和7年度採用(2024年夏実施)教員採用試験結果(公立学校)

校種	合格名簿 登載人数	内訳(自治体)
小学校	21人	京都市3, 滋賀県5, 大阪府1, 大阪市2, 豊能地区1 福井県1, 東京都1, 横浜市1, 静岡県1, 島根県3 広島県広島市1, 高知県1
中学校	3人	滋賀県2(国語科1, 社会科1), 静岡県1(社会科)
高等学校	1人	滋賀県1(地理歴史科)
支援学校	1人	京都市1